

海外短期留学報告書

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻 修士1年

氏名： 針谷 尚裕

私は2011年9月11日から23日の12日間、アメリカに短期留学しました。主な目的は2つありました。1つはUCLA(University of California Los Angeles)を訪問し、共同研究についての打ち合わせをすることです。もう1つは、CICC(Custom Integrated Circuits Conference)という集積回路の国際学会に参加することです。今回、この短期留学に参加しようと思った理由は、半導体分野で最先端の技術を持っている大学、企業の訪問と、権威のある国際学会に参加することで、集積回路の最先端技術を学びたいと思ったからです。

9月11日から17日の1週間はUCLAで活動しました。まず、UCLA内の施設や研究室を見学しました。設備や測定機器が充実しており、研究室の学生は熱心に研究をしており、日本の大学の環境とは多少異なる部分もありました。その後、Asad A. Abidi教授の研究室を訪問し、共同研究の打ち合わせと回路シミュレーションを行いました。また、私たちの滞在最終日にAbidi教授から、ジッタと位相ノイズに関する基礎講義をしていただきました。大学での私の研究テーマはジッタ測定に関することなので、とても勉強になりました。さらに、この1週間ではUCLA内外の様々な場所を訪問見学しました。UCLAでは、伊藤龍男教授、Frank Chang教授の研究室見学をさせていただき、Behzad Razavi教授とも面会しました。UCLA外では、カリフォルニア州南部にある通信技術開発企業と、有名なソフトウェア会社を訪問しました。

9月18日から22日は、San Joseに移動し、CICCに参加いたしました。18日はEducational Sessionに参加し、回路の最先端技術の基礎を学びました。19日からは学会発表を聴講しました。どの発表内容もレベルが高く、正直理解できない部分もありましたが、私の研究テーマに関わる内容の発表は、理解することができ、とても参考になりました。様々な研究分野の発表を聞いたことで、自分の知識や視野を広げることができました。また、海外での国際学会でしたが、日本の企業や大学も参加しており、その方々と交流を深めることもできました。日本の大学からは、私と同じ修士1年の方がPoster Sessionで発表しており、私もこのような有名な学会で発表したいと刺激を受けました。

今回の短期留学を通して、半導体分野の最新動向を知ることができ、とても勉強になりました。それだけではなく、今後の研究に対する意欲も高まりました。また日本では、英語は論文を読む程度で、あまり会話をする機会がなかったため、留学先での会話に苦労しました。それでも留学の後半の方では相手の話を理解し、会話も多少できるようになりました。今後は、英語をもっと勉強し、海外の方とも交流を深めていきたいと思っています。今回は2週間の短期留学でしたが、今後機会があれば長期の海外留学にも積極的に参加したいと思っています。

Behzad Razavi 教授と



回路シミュレーション作業風景

